

平成29年度 キャリア教養学科 2年

専門科目

戦後日本社会史A	01	北米の歴史と文化	14
戦後日本社会史B	02	観光英語II	15
現代の国際関係A	03	TOEIC演習B	16
現代の国際関係B	04	情報リテラシー	17
経営学基礎	05	キャリア教養特講III	18
公共政策論	06	特別研究 経済・経営	19
簿記入門	07	特別研究 情報と人・心理	21
ビジネス実務総合演習	08	特別研究 生涯学習・自己づくり・地域づくり	23
カウンセリング演習	09	特別研究 メンタルヘルスとコミュニケーション	25
メンタルヘルスマネジメント	10	特別研究 99%英語での研究	27
リスクコミュニケーション論	11	特別研究 言葉と文化・人	29
上級リーディングA	12	特別研究	31
上級リーディングB	13		

戦後日本社会史 A

概要

本講義では、戦後日本社会史のうち、1945年～1980年代後半までの時期について学習する。この場合、「戦後（第二次世界大戦後）」、「米ソ冷戦」、「昭和」の3つの観点から、「政治・外交」、「経済」、「社会・文化」分野の重要出来事に焦点を当てるものである。授業では、当時の映像資料等を積極的に活用したい。また、学生の学習意欲を高めるため、新聞やニュースで注目を集めている時事問題の解説にも十分な時間を取りたいと考えている。

担当教員	吉高神 明
授業形態	講義
学期	前期
必修・選択の別	選択
対象学生	キャリア教養学科2年
時間数	90分×15回
単位数	2

目標

本講義の受講生に期待される到達目標は以下の通りである。

1. 戦後日本社会史（1945～1980年代後半）を理解する上で重要な出来事やキーワードについて説明できるようになる。2. 戦後日本社会史（1945～1980年代後半）が今日の日本にとってどのような意義を持っているのかについて、自分自身の考えを持てるようになる。3. 戦後日本社会史（1945～1980年代後半）の観点から、現在の日本が直面している重要問題について、自分なりの分析を行えるようになる。

各回の内容

1. 授業の説明
2. 戦後日本の原点
3. 米ソ冷戦
4. 国際連合の設立
5. 日本国憲法と自衛隊
6. 国際社会への復帰と対米協調路線の確立
7. 領土問題：北方領土、竹島、尖閣諸島
8. ソ連（現ロシア）、韓国、中国との国交正常化
9. 55年体制
10. 高度経済成長
11. 沖縄返還
12. 日米関係の変容
13. 「昭和」の流行：アイドル、ファッション、ヒット商品
14. 「昭和」の流行：アイドル、ファッション、ヒット商品
15. 授業のまとめ
16. 試験

準備学習（予習・復習等）

ニュースや新聞等を通じて、現在の世界と日本が直面している重要問題について、一定の知識を有しておくことが望ましい。

短期大学設置基準では、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することが標準と定められております。本学では講義、演習については、原則として15時間の授業をもって1単位としています*ので、1単位の講義、演習については、30時間、2単位の講義、演習については60時間の予習・復習が必要となります(実験・実習は除く)。 *学則第24条

評価方法

以下の3つの基準に基づいて、最終的な成績を決定する。

1. 授業の際の課題を含む平常点（20%） 2. 中間レポート（30%） 3. 最終テスト（50%）

教科書

教科書は使用しない。授業の際に、プリントを配布する。

参考文献

- ・『昭和・平成史年表』平凡社2009年
- ・細田正和、片岡義博『明日がわかるキーワード年表』彩流社2009年
- ・太田省一『アイドル進化論』筑摩書房 2011年
- ・中村政則、森武磨『年表昭和・平成史：1926～2011』岩波 2012年

戦後日本社会史 B

概要

本講義では、戦後日本社会史のうち1980年代後半から今日に至るまでの時期について学習する。この場合、「ポスト戦後」、「ポスト冷戦」、「平成」の3つの観点から、「政治・外交」、「経済」、「社会・文化」分野の重要出来事に焦点を当てるものである。

授業では、当時の映像資料等を積極的に活用したい。また、学生の学習意欲を高めるため、新聞やニュースで注目を集めている時事問題の解説にも十分な時間を取りたいと考えている。

担当教員	吉高神 明
授業形態	講義
学期	後期
必修・選択の別	選択
対象学生	キャリア教養学科2年
時間数	90分×15回
単位数	2

目標

本講義の受講生に期待される到達目標は以下の通りである。

1. 戦後日本社会史（1980年代後半～）を理解する上で重要な出来事やキーワードについて説明できるようになる。
2. 戦後日本社会史（1980年代後半～）が今日の日本にとってどのような意義を持っているのかについて、自分自身の考えを持てるようになる。
3. 戦後日本社会史（1980年代後半～）の観点から、現在の日本が直面している重要問題について、自分なりの分析を行えるようになる。

各回の内容

1. 授業の説明
2. ミソ冷戦の終結と湾岸戦争
3. バブル経済の発生と崩壊
4. バブル経済の発生と崩壊
5. 米国同時多発テロ事件と日本
6. イラク戦争と日本
7. リーマン・ショック
8. リーマン・ショック
9. 東日本大震災・福島第一原発事故
10. 東日本大震災・福島第一原発事故
11. 55年体制の変容
12. 戦後日本社会史における安倍政権の位置づけ
13. 「平成」の流行：アイドル、ファッション、ヒット商品
14. 「平成」の流行：アイドル、ファッション、ヒット商品
15. 授業のまとめ
16. 試験

準備学習（予習・復習等）

ニュースや新聞等を通じて、現在の世界と日本が直面している重要問題について、一定の知識を有しておくことが望ましい。

短期大学設置基準では、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することが標準と定められております。本学では講義、演習については、原則として15時間の授業をもって1単位としています*ので、1単位の講義、演習については、30時間、2単位の講義、演習については60時間の予習・復習が必要となります(実験・実習は除く)。 *学則第24条

評価方法

以下の3つの基準に基づいて、最終的な成績を決定する。

1. 授業の際の課題を含む平常点（20%）
2. 中間レポート（30%）
3. 最終テスト（50%）

教科書

教科書は使用しない。授業の際に、プリントを配布する。

参考文献

- ・『昭和・平成史年表』平凡社2009年
- ・細田正和、片岡義博『明日がわかるキーワード年表』彩流社 2009年
- ・太田省一『アイドル進化論』筑摩書房 2011年
- ・中村政則、森武麿『年表昭和・平成史：1926～2011』岩波 2012年

現代の国際関係 A

概要

本講義では、「3.11（東日本大震災・福島第一原発事故）」以後の日本を取り巻く国際情勢について学習する。この場合、「転換期を迎えた世界」と「3.11の被災地福島」との関連性に焦点を当てるものである。「国際関係」はとらえにくい学習対象であるが、政治、経済、外交、安全保障分野の基礎知識のない学生にも配慮しつつ、講義を行う。また、学習意欲を高めるため、新聞やニュースで注目を集めている時事問題の解説にも十分な時間を取りたいと考えている。

担当教員	吉高神 明
授業形態	講義
学期	前期
必修・選択の別	選択
対象学生	キャリア教養学科2年
時間数	90分×15回
単位数	2

目標

本講義の受講生に期待される到達目標は以下の通りである。

1. 「転換期を迎えた世界」を理解する上で重要なデータとキーワードについて、説明ができるようになる。
2. 「転換期を迎えた世界」と「3.11の被災地福島」がどのようにつながっているのかについて、自分自身の考えを持てるようになる。
3. 現在関心を集めている国際問題について、自分なりの分析が行えるようになる。

各回の内容

1. 授業の説明
2. 「転換期を迎えた世界」の考察枠組み
3. データとキーワードでとらえる転換期世界
4. データとキーワードでとらえる転換期世界
5. より良い世界の実現に向けた取り組み
6. より良い世界の実現に向けた取り組み
7. 東日本大震災・福島第一原発事故：グローバルな次元
8. 東日本大震災・福島第一原発事故：グローバルな次元
9. 世界と福島をつなぐ視点1：ビジネス
10. 世界と福島をつなぐ視点1：ビジネス
11. 世界と福島をつなぐ視点2：若者・文化
12. 世界と福島をつなぐ視点2：若者・文化
13. 世界と福島をつなぐ視点3：観光
14. 世界と福島をつなぐ視点3：観光
15. 授業のまとめ
16. 試験

準備学習（予習・復習等）

ニュースや新聞等を通じて、現在の世界と日本が直面している重要問題について、一定の知識を有しておくことが望ましい。

短期大学設置基準では、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することが標準と定められております。本学では講義、演習については、原則として15時間の授業をもって1単位としています*ので、1単位の講義、演習については、30時間、2単位の講義、演習については60時間の予習・復習が必要となります(実験・実習は除く)。 *学則第24条

評価方法

以下の3つの基準に基づいて、最終的な成績を決定する。

1. 授業の際の課題を含む平常点（20%）
2. 中間レポート（30%）
3. 最終テスト（50%）

教科書

教科書は使用しない。授業の際に、プリントを配布する。

参考文献

自学自習に有益なインターネット・サイトは、以下の通りである。

首相官邸：<http://www.kantei.go.jp> 外務省：<http://www.mofa.go.jp/mofaj>

総務省統計局統計センター：<http://www.stat.go.jp/data/guide/index.htm>

現代の国際関係 B

概要

本講義では、転換期を迎えたアジアの最新事情について学習する。この場合、「転換期を迎えたアジア」と「今、ここにいる自分」との関連性に焦点を当てるものである。多くの学生にとって「アジア」はとらえにくい学習対象であるが、授業では、現地調査の際の写真やエピソード、街角で見つけた不思議なグッズなども紹介したい。また、学生の学習意欲を高めるため、新聞やニュースで注目を集めているアジアに関連する時事問題の解説にも十分な時間を取りたいと考えている。

担当教員	吉高神 明
授業形態	講義
学期	後期
必修・選択の別	選択
対象学生	キャリア教養学科2年
時間数	90分×15回
単位数	2

目標

本講義では、転換期を迎えたアジアの最新事情について学習する。この場合、「転換期を迎えたアジア」と「今、ここにいる自分」との関連性に焦点を当てるものである。多くの学生にとって「アジア」はとらえにくい学習対象であるが、授業では、現地調査の際の写真やエピソード、街角で見つけた不思議なグッズなども紹介したい。また、学生の学習意欲を高めるため、新聞やニュースで注目を集めているアジアに関連する時事問題の解説にも十分な時間を取りたいと考えている。

各回の内容

1. 授業の説明
2. 「転換期を迎えたアジア」の考察枠組み
3. シンガポール：多民族国家の素顔
4. マレーシア：多民族共存とイスラム・アイデンティティのはざまで
5. ベトナム：内憂外患に直面する親日国家の苦悩
6. カンボジア：内戦の悲劇と世界遺産と共に
7. タイ：親日国家の希望と苦悩
8. ラオス：ASEAN唯一の内陸国の素顔
9. インドネシア：世界最大のイスラム国家はどこに行くのか？
10. フィリピン：安定成長を続けるリゾート・アイランド
11. ミャンマー：アジアの「最後のフロンティア」のゆくえ
12. インド：ICT立国を目指す潜在的超大国のゆくえ
13. バングラデシュ：NGO/NPOが支える公共セクター
14. ネパール：大地震（2015年4月）からの復興
15. 授業のまとめ
16. 試験

準備学習（予習・復習等）

ニュースや新聞等を通じて、現在のアジアと日本が直面している重要問題について、一定の知識を有しておくことが望ましい。

短期大学設置基準では、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することが標準と定められております。本学では講義、演習については、原則として15時間の授業をもって1単位としています*ので、1単位の講義、演習については、30時間、2単位の講義、演習については60時間の予習・復習が必要となります(実験・実習は除く)。 *学則第24条

評価方法

以下の3つの基準に基づいて、最終的な成績を決定する。

1. 授業の際の課題を含む平常点（20%）
2. 中間レポート（30%）
3. 最終テスト（50%）

教科書

教科書は使用しない。授業の際に、プリントを配布する。

参考文献

自学自習に有益なインターネット・サイトは、以下の通りである。

首相官邸：http://www.kantei.go.jp 外務省：http://www.mofa.go.jp/mofaj

総務省統計局統計センター：http://www.stat.go.jp/data/guide/index.htm

経営学基礎

概要

企業活動に関する理論を事例等を通して体系的に学ぶ。

担当教員	山野実
授業形態	講義
学期	前期
必修・選択の別	選択
対象学生	キャリア教養学科2年
時間数	90分×15回
単位数	2

目標

企業行動の背景にある企業の論理を理解し、現実の企業の様々な活動をより深く理解する力を身につける。

各回の内容

1. 経営学とは

2. 企業の戦略(1)

3. 企業の戦略(2)

4. 企業の戦略(3)

5. 企業の戦略(4)

6. 企業の戦略(5)

7. ケース・スタディ(1)

8. ケース・スタディ(2)

9. 組織のマネジメント(1)

10. 組織のマネジメント(2)

11. 組織のマネジメント(3)

12. 組織のマネジメント(4)

13. 組織のマネジメント(5)

14. ケース・スタディ(3)

15. ケース・スタディ(4)

16. 試験

準備学習(予習・復習等)

企業に関するニュースに問題意識をもって接する。

短期大学設置基準では、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することが標準と定められております。本学では講義、演習については、原則として15時間の授業をもって1単位としています*ので、1単位の講義、演習については、30時間、2単位の講義、演習については60時間の予習・復習が必要となります(実験・実習は除く)。 *学則第24条

評価方法

課題レポート40%、試験60%

教科書

必要に応じ、レジュメ等を配布する。

参考文献

必要に応じ、授業で紹介する。

公共政策論

概要

現代社会の諸問題、それに対する政府、NPOなどの取り組み等について学ぶ。また、関連する経済学の知識に対する理解を深める。

担当教員	山野実
授業形態	講義
学期	2年後期
必修・選択の別	選択
対象学生	キャリア教養学科2年
時間数	90分×15回
単位数	2

目標

社会保障、環境など現代社会の諸問題に対する理解を深める。

各回の内容

1. 公共問題とは何か
2. 経済学と現代社会の諸問題（1）
3. 経済学と現代社会の諸問題（2）
4. 経済学と現代社会の諸問題（3）
5. 経済学と現代社会の諸問題（4）
6. 経済学と現代社会の諸問題（5）
7. 経済学と現代社会の諸問題（6）
8. 経済学と現代社会の諸問題（7）
9. 経済学と現代社会の諸問題（8）
10. 現代社会の諸問題（1）
11. 現代社会の諸問題（2）
12. 現代社会の諸問題（3）
13. 現代社会の諸問題（4）
14. 現代社会の諸問題（5）
15. 現代社会の諸問題（6）
16. 試験

準備学習（予習・復習等）

新聞、TV等のニュースに関心をもつ

短期大学設置基準では、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することが標準と定められております。本学では講義、演習については、原則として15時間の授業をもって1単位としています*ので、1単位の講義、演習については、30時間、2単位の講義、演習については60時間の予習・復習が必要となります(実験・実習は除く)。 *学則第24条

評価方法

試験60%、小テスト40%

教科書

必要に応じ、紹介する

参考文献

必要に応じ、紹介する

簿記入門

概要

簿記の基礎として、簿記の目的、企業で用いる複式簿記について学ぶ。
 企業における経営活動を簿記のルールに基づき、取引の仕分、勘定への転記、決算処理に至る手続きについて学ぶ。
 さらに、一定時点の財政状態を表す貸借対照表、一定期間の経営成績を表す損益計算書について学ぶ。

担当教員	菅野 貴夫
授業形態	講義・演習
学期	後期
必修・選択の別	選択
対象学生	キャリア教養学科1・2年
時間数	90分×15回
単位数	2

目標

企業における様々な経営活動を帳簿に記録・計算・整理する方法(技術)としての簿記の基礎(日商簿記3級程度)を理解する。
 さらに、簿記の目的である、企業における一定時点の財政状態や、一定期間の経営状態を明らかにすることについても理解する。

各回の内容

1. 簿記の基礎
2. 商品売買
3. 現金預金
4. 手形
5. 有価証券と固定資産
6. その他の取引
7. 帳簿
8. 試算表
9. 伝票会計
10. 決算手続
11. 決算手続
12. 決算手続
13. 演習
14. 演習
15. 演習
16. 試験

準備学習(予習・復習等)

予習(事前にテキストを1回以上読んでから講義に臨む)、復習(講義の復習として練習問題は2回以上行う)予習以上に復習に時間をかける。
 計算手段として電卓を準備する。(12桁表示、携帯電話・スマホ等は不可)

短期大学設置基準では、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することが標準と定められております。本学では講義、演習については、原則として15時間の授業をもって1単位としています*ので、1単位の講義、演習については、30時間、2単位の講義、演習については60時間の予習・復習が必要となります(実験・実習は除く)。 *学則第24条

評価方法

試験70%、授業の中で実施する小テスト30%

教科書

滝澤ななみ『TAC簿記の教室シリーズ 簿記の教科書(日商簿記3級 商業簿記)』TAC出版
 ISBN978-4-8132-5254-2 定価 本体800円 <最新版>

参考文献

必要に応じて、授業で紹介する。

ビジネス実務総合演習

概要

実践キャリア実務士の必修科目

実践的なビジネス実務のスキルを習得するために、大きく4つの実践的課題をグループごとに解決していく。その課題を達成するための内容を、グループディスカッションを通して整理し、実際に行い、評価をして、さらなる向上のための対策案を立案する。

担当教員	加藤竜哉他
授業形態	演習
学期	前期
必修・選択の別	選択
対象学生	CE2年生
時間数	90分×15回
単位数	2

目標

ビジネスの各シーンで、「分かる」から「できる」を目指す。
 グループディスカッションで、課題の整理 対応の検討 実施と評価 次回への改善点を整理できる。
 1年後期で学習した、ビジネスコミュニケーション能力の9つのスキルを活用し、改善への指針を作成できる。
 自己評価ルーブリックを自ら作成し、提出できる。

各回の内容

1. オリエンテーション、課題の提示、ルーブリック評価について
2. 課題1：お客様を受け入れる際の準備と実践 課題に対する自己チェックと共有（グループディスカッション）
3. 課題1の発表と実践
4. 課題1の自己評価と、グループ内共有、改善案の作成と提出
5. 自己のコンピテンシーチェック（PROGの実施）と対策案作成について
6. 課題2：お客様訪問時の準備と実践 課題に対する自己チェックと共有（グループディスカッション）
7. 課題2の発表と実践
8. 課題2の自己評価と、グループ内共有、改善案の作成と提出
9. PROGの返却と、過去のPROG結果との比較から対策案の立案
10. 課題3：他者の視点で物事を捉える1【制服着用】
11. 課題3：他者の視点で物事を捉える2（ディスカッション1）
12. 課題3：他者の視点で物事を捉える3（ディスカッション2）レポート課題提示
13. 課題4：おもてなしの心1 来客をもてなすには【制服着用】
14. 課題4：おもてなしの心2 他社訪問時に気持ちにして伝えるには【制服着用】
15. 課題4：おもてなしの心3 訪問時、特に和室での対応【制服着用】レポート課題提示
16. 最終課題作成とルーブリック評価

準備学習（予習・復習等）

事前学習：各課題ごとの事前回答の準備と作成。

事後学習：各回の振り返り記述と提出、各課題のレポート作成と提出

短期大学設置基準では、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することが標準と定められております。本学では講義、演習については、原則として15時間の授業をもって1単位としています*ので、1単位の講義、演習については、30時間、2単位の講義、演習については60時間の予習・復習が必要となります(実験・実習は除く)。 *学則第24条

評価方法

毎回の振り返り（各回2点×15回）= 30%、4つの課題のレポートなど作成（各回5点×4回）= 20点、自己評価ルーブリックの作成と提出 = 50点

教科書

ビジネス実務 および のテキスト、本学配布のキャリアハンドブック、1年次の各種診断結果、資料を都度配布
 PROGの解説書

参考文献

その都度、授業で紹介する。

カウンセリング演習

概要

事例検討とロールプレイを丁寧に積み重ね、カウンセリングプロセスを実践的に学ぶ。尚、受講者にはグループ演習に対する自発的かつ積極的な参画と、対話と傾聴を中心とするコミュニケーションスキルが求められる。

担当教員	後藤 真
授業形態	演習
学期	前期
必修・選択の別	選択
対象学生	キャリア教養学科2年
時間数	90分×15回
単位数	2

目標

カウンセリングの基礎理論を理解し、演習を通して基本的なカウンセリング技術および対話の技法を身につける。

各回の内容

1. カウンセリングの意義
2. カウンセリング理論
3. カウンセリングプロセスと事例
4. カウンセリング演習
5. カウンセリング演習
6. カウンセリング演習
7. 「効果的」なカウンセリング
8. 傾聴の意義と技術
9. 事例分析の技術
10. ロールプレイ：事例1
11. ロールプレイ：事例2
12. ロールプレイ：事例3
13. 質問技法とフィードバック
14. カウンセラーの倫理とカウンセリングマインド
15. ライフデザインとカウンセリング ～「わかる」から「できる」へ～

準備学習（予習・復習等）

授業で配布される自主学習ワークシートに取り組む。また、関連するニュースに関心を持つ。

短期大学設置基準では、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することが標準と定められております。本学では講義、演習については、原則として15時間の授業をもって1単位としています*ので、1単位の講義、演習については、30時間、2単位の講義、演習については60時間の予習・復習が必要となります(実験・実習は除く)。 *学則第24条

評価方法

授業レビューシート40%、中間レポート30%、期末レポート30%

教科書

なし

参考文献

その都度、授業で紹介する

メンタルヘルスマネジメント

概要

現代社会におけるメンタルヘルスケアについての基礎知識を習得する。セルフケア、ストレスマネジメント、ストレスコーピング等について具体的な事例を通して学習する。

担当教員	後藤 真
授業形態	講義
学期	後期
必修・選択の別	選択
対象学生	キャリア教養学科2年
時間数	90分×15回
単位数	2

目標

ストレス理論を中心としたメンタルヘルスケアの基礎知識を学ぶ。ストレスコーピングスキルを身につけ、予防的観点から日常生活に応用することができる。

各回の内容

1. 導入：メンタルヘルスケアの意義
2. 若者を取り巻く環境
3. 変化と適応のメンタルヘルス
4. 思春期～青年期のストレス
5. こころとカラダの不調
6. ストレスコーピングスキル
7. ストレスコーピングスキル
8. ストレスコーピングスキル
9. 心身の健康管理とカウンセリング
10. 演習：事例検討
11. 演習：事例検討
12. 演習：事例検討
13. 演習：事例検討
14. 「私」をケアするライフデザイン
15. セルフケアからトータルケアへ

準備学習（予習・復習等）

授業で配布される自主学習ワークシートに取り組む。また、関連するニュースに関心を持つ

短期大学設置基準では、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することが標準と定められております。本学では講義、演習については、原則として15時間の授業をもって1単位としています*ので、1単位の講義、演習については、30時間、2単位の講義、演習については60時間の予習・復習が必要となります(実験・実習は除く)。 *学則第24条

評価方法

授業レビューシート40%、中間レポート30%、期末レポート30%

教科書

なし

参考文献

その都度、授業で紹介する

リスクコミュニケーション論

概要

システムの安全・安心とリスクに視座し、情報を疑う力、検証する力を養うと共に、リスク認知の視点から、リスクコミュニケーションを学ぶ。食料品・BSE問題・交通事故・医療問題・原発問題など身の回りにある諸問題を取り上げ、具体的にリスクとあるべきコミュニケーションを思考し、社会の安全について教養を深める。意思決定の極性化が蔓延する現代において、どのようにして信頼社会を築くのかを、相互ディスカッションを通して思考する。

担当教員	加藤竜哉
授業形態	講義
学期	後期
必修・選択の別	選択
対象学生	キャリア教養学科2年
時間数	90分×15回
単位数	2

目標

リスクに関する基礎的な用語について自分の言葉で話すことや書くことができる。
 複眼的・多角的視野からものごとを捉えることができる。
 リスクコミュニケーションの諸問題について、自分の言葉で書くことができる。

各回の内容

1. 安全と安心の構図
2. リスクコミュニケーションとは？
3. 風評被害を考える
4. 人・リスク・事故
5. 天然と自然？
6. リスク認知とリスク判断
7. リスクの伝え方と風評被害
8. リスクコミュニケーションとは
9. 身の回りの諸問題とリスク
10. リスク行動
11. 報道を読み込む：食品
12. 報道を読み込む：原発
13. リスクと共存
14. 情報共有と対話
15. グラフを読み取る眼、まとめ

準備学習（予習・復習等）

事前学習：必ず指示されたテキストのページを読み込み、質問を考え、整理しておく。
 事後学習：レポート作成、学習内容に関する情報をWeb検索する

短期大学設置基準では、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することが標準と定められております。本学では講義、演習については、原則として15時間の授業をもって1単位としています*ので、1単位の講義、演習については、30時間、2単位の講義、演習については60時間の予習・復習が必要となります(実験・実習は除く)。 *学則第24条

評価方法

毎回の振り返り（各回5点満点×15回を100%とし、30%換算する）レポート作成（期末レポート含）70%

教科書

唐木 英明著『不安の構造 リスクを管理する方法』エネルギーフォーラム 2014

参考文献

その都度、紹介する。

上級リーディングA

概要

編入試験および外部検定試験に対応できる英文読解力を養うとともに、実践的コミュニケーション能力を高める。

担当教員	高橋未希
授業形態	講義・演習
学期	前期
必修・選択の別	必修
対象学生	2年生
時間数	90分×15回
単位数	2

目標

編入試験および外部検定試験に対応できるような英文読解力および聴解力を養う。
場面別で使用される英語の言い回しを使用するための知識と技術の養成を行う。
自分の状況や意見を相手に伝えるための基本的技能を獲得する。

各回の内容

1. オリエンテーション / Tell Us about Yourself
2. Getting to know
3. Dining out
4. Can I Ask Who Is Calling, Please?
5. Let's Stick to the Schedule
6. Review
7. まとめ
8. Can I make a Point Here?
9. I'm Not Sure I Agree
10. Today's Topic Is . . .
11. To Sum Up
12. Any Questions?
13. Presentaion I
14. Presentation
15. Review

準備学習（予習・復習等）

予習） 附属のCDを用いて、指定された箇所の問題に答えておくこと

復習） 指定された箇所の問題に答え、小テストの対策を十分に行っておくこと

短期大学設置基準では、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することが標準と定められております。本学では講義、演習については、原則として15時間の授業をもって1単位としています*ので、1単位の講義、演習については、30時間、2単位の講義、演習については60時間の予習・復習が必要となります(実験・実習は除く)。 *学則第24条

評価方法

出席・参加態度 10%

小テスト20%

Presentation 20%

試験50%

教科書

『Interactive Business English on DVD』 成美堂

参考文献

特にないが、積極的に英語に触れる機会を作ること。

上級リーディングB

概要

編入試験レベルの英語長文読解力を養うとともに、その背景となる時事的諸問題について自分の見識から読み進めることを学ぶ。音声教材と抱き合わせで用いることで、聴解力の向上も同時に養い、受容スキルの総合的な向上を図る。

担当教員	高橋未希
授業形態	講義
学期	後期
必修・選択の別	選択
対象学生	キャリア教養学科2年
時間数	90分×15回
単位数	2

目標

時事問題に関する英文を理解することができる。
 現代事情に関する英単語の語彙数を増やすことができる。
 多様なアクセントを持つ英語の発音を聞き分け、内容を理解することができる
 実際に母語話者が触れる英語の内容に触れることでリスニング力を向上させることができる。
 世界情勢を把握することで教養を高め、異なる意見を受け止め、自分の意見を発信することができる。

各回の内容

1. オリエンテーション	Lesson1
2. Lesson2	
3. Lesson3	
4. Lesson4	
5. Lesson5	
6. Lesson6	
7. まとめ	
8. まとめテスト	
9. Lesson7	
10. Lesson8	
11. Lesson9	
12. Lesson10	
13. Lesson11	
14. Lesson12	
15. 時事問題のプレゼンテーション	
16. 期末試験	

準備学習（予習・復習等）

学習した新出単語を覚え、指示された課題を行う。
 自主的に海外情勢に目を向け、国際問題や日本と海外との関係に対して理解を深めること。

短期大学設置基準では、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することが標準と定められております。本学では講義、演習については、原則として15時間の授業をもって1単位としています*ので、1単位の講義、演習については、30時間、2単位の講義、演習については60時間の予習・復習が必要となります(実験・実習は除く)。 *学則第24条

評価方法

出席・参加態度10% まとめテスト50% 小テスト20% 時事問題に関するプレゼンテーション20%

教科書

『English For The Global Age With CNN』 朝日出版社

参考文献

なし

北米の歴史と文化

概要

担当教員	ウィリアム マクマイケル
授業形態	講義
学期	後期
必修・選択の別	選択
対象学生	キャリア教養学科2年
時間数	90分×15回
単位数	2

日本から多くの旅行者や留学生がカナダを訪れるようになってきているにもかかわらず、カナダという国について日本人が十分な理解をしているかと言えば、そうとは言い難い。そこで、この授業においてはカナダがどのような歴史を経て形成され、発展してきたのか、さらにまた現代カナダはどのような社会・政治・教育・経済・文化によって構成されているのかを、最新の事柄を中心に考察をしていきたい。また、授業の中で、随時「多文化共生大国」であるカナダのダイバーシティ教育や思想から学べる異文化適応のコツや、グローバルマインドの形成など、将来海外で活躍する為に必要なスキルについても参加型学習を通して学ぶ。

目標

日本から多くの旅行者や留学生がカナダを訪れるようになってきているにもかかわらず、カナダという国について日本人が十分な理解をしているかと言えば、そうとは言い難い。そこで、この授業においてはカナダがどのような歴史を経て形成され、発展してきたのか、さらにまた現代カナダはどのような社会・政治・教育・経済・文化によって構成されているのかを、最新の事柄を中心に考察をしていきたい。また、授業の中で、随時「多文化共生大国」であるカナダのダイバーシティ教育や思想から学べる異文化適応のコツや、グローバルマインドの形成など、将来海外で活躍する為に必要なスキルについても参加型学習を通して学ぶ。

各回の内容

1. イントロダクション・導入「カナダのイメージと実態」
2. 多文化共生ってなんだろう？カナダから学ぶグローバル時代のメリット
3. カナダの歴史 先住民から植民地時代
4. カナダの歴史 独立から世界大戦後の社会変革
5. カナダの歴史 現代カナダ社会の形成からトルドー政権誕生まで
6. 小テスト
7. カナダの政治 政治構造の仕組みと日本との違い
8. カナダの政治 アメリカとの外交とPKO
9. カナダの文化 民族のモザイクがもたらす物
10. カナダの文化 赤毛のアンからシルクドソレイユまで
11. カナダの文化 ホッケーから考察するナショナルアイデンティティー
12. カナダの経済 日加経済交流の歴史と課題
13. カナダの教育 メディアリテラシーなど、特徴的な教育政策
14. 現代カナダの課題 移民とケベック問題
15. まとめ カナダの歴史と文化から何を学べるのか
16. 試験

準備学習（予習・復習等）

本授業は原則参加型学習形態で行われる。そのため、授業の終わりに課される事前リーディング資料やビデオ視聴は、必ず授業前に行ってくることを求められる。

短期大学設置基準では、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することが標準と定められております。本学では講義、演習については、原則として15時間の授業をもって1単位としています*ので、1単位の講義、演習については、30時間、2単位の講義、演習については60時間の予習・復習が必要となります(実験・実習は除く)。 *学則第24条

評価方法

試験 小テスト20%、期末試験40%、
試験以外 参加態度（コミュニケーション・ペーパーの提出、グループワークでの発言）40%

教科書

毎回プリントを配布する

参考文献

飯野 正子編著、竹中 豊編著『現代カナダを知るための57章 エリアスタディーズ』明石書店、2013年

観光英語

概要

観光英語検定とは国際人としての英語力を身につけることを目的とし、外国人とのコミュニケーション力を観光の分野を通してその運用能力を計るものである。約5,000語の語彙力・適切な文法・構文の知識が必要とされ、実用英語検定2級に相当する。ここでは旅行者として、また観光業で用いられる一般的な英会話表現及び専門用語を学び、観光英語検定2級取得を目指す。観光英語 の単位取得者が望ましい。

担当教員	佐藤夏美
授業形態	講義・演習
学期	前期
必修・選択の別	選択
対象学生	キャリア教養学科2年
時間数	90分×15回
単位数	2

目標

予約関連業務、ホテル関連業務、出入国に関する手続き、機内放送等のアナウンス、食事、通貨、交通機関等、観光・旅行業に必要となる専門的な単語および英語による日常会話ができる。リスニングやロールプレイングを通して実際の場面を想定し、英語でのコミュニケーションができる。観光に必須の文化（国内外・異文化）、地理、歴史の知識を深める。

各回の内容

1. レベルチェックテスト（観光英語検定過去問題）
2. Travel information
3. At the airport
4. Hotel
5. Dining
6. Asking and giving directions
7. Buses and trains
8. Mailing and money exchange
9. Review 1
10. Sightseeing 1
11. Sightseeing 2
12. Problems and complaints
13. Tour conductor duties
14. Sightseeing in Japan
15. Review 2
16. 試験

準備学習（予習・復習等）

テキストを予習し、新出単語及び表現を確認しておく。ユニット毎の単語テストに備え、継続的に学習する。リーディング問題と講義で指示がある部分については自己学習とし、模範解答で知識を確認する。英作文の添削を希望する場合は随時提出する。

短期大学設置基準では、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することが標準と定められております。本学では講義、演習については、原則として15時間の授業をもって1単位としています*ので、1単位の講義、演習については、30時間、2単位の講義、演習については60時間の予習・復習が必要となります(実験・実習は除く)。 *学則第24条

評価方法

単語テスト20%、中間確認テスト30%、学期末テスト30%、課題20%
(各テストは講義で返却、解説をする。学期末テストは、実施後に模範解答で確認とする。)

教科書

全国語学ビジネス観光教育協会・観光英検センター編『ENGLISH FOR TOURISM intermediate』三修社

参考文献

その都度紹介する。

TOEIC演習B

概要

This course will focus on the Reading section of the TOEIC test. Tips for increasing the student's score will be discussed in detail. Mini tests also will given after each part. This class will be conducted all in English.

担当教員	藤平明彦アンドリュー
授業形態	演習
学期	前期
必修・選択の別	選択
対象学生	キャリア教養学科2年
時間数	90分×15回
単位数	2

目標

Students will learn necessary vocabulary for the Reading section.
Learners will practice grammatical structures of the Reading section.
Students will improve their overall score on the summer in-school TOEIC test.

各回の内容

1. Course Introduction and TOEIC Reading Test (1)
2. Grammar (for Part 5 and 6)
3. Grammar (for Part 5 and 6)
4. Grammar (for Part 5 and 6)
5. Vocabulary (for Part 5 and 6)
6. Vocabulary (for Part 5 and 6)
7. Vocabulary (for Part 5 and 6)
8. Part 5 (Incomplete Sentences)
9. Part 5 (Steps to Success and Review)
10. Part 6 (Text Completion)
11. Part 6 (Steps to Success and Review)
12. Part 7 (Main Ideas and Details)
13. Part 7 (Details and Inferences)
14. Part 7 (Steps to Success and Review)
15. TOEIC Reading Test (2)

準備学習（予習・復習等）

- （予習） Study the necessary vocabulary for each lesson and complete the online grammar worksheets.
（復習） Review the answers to the grammar worksheets and in-class activities.

短期大学設置基準では、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することが標準と定められております。本学では講義、演習については、原則として15時間の授業をもって1単位としています*ので、1単位の講義、演習については、30時間、2単位の講義、演習については60時間の予習・復習が必要となります(実験・実習は除く)。 *学則第24条

評価方法

Reading Test improvement 30%,
Vocabulary Quizzes 20%, Grammar Homework 20%,
Review Tests 15%, Participation 10%

教科書

『Pass the TOEIC Test - Introductory Course』 First Press ELT

参考文献

情報リテラシー

概要

共通教育の「情報演習」よりも、さらに実践的な情報リテラシーを学習する。卒業後企業や編入先の環境を考えると、情報検索能力、作業効率性向上、現状のICT環境の理解等のスキルは、今や必ず獲得しなければならないスキルである。これら3つのスキルを中心に、自ら思考し活用できる力を養う。

授業以外に自学・自習する時間が必要です。

担当教員	加藤竜哉
授業形態	演習
学期	2年前期
必修・選択の別	選択
対象学生	キャリア教養学科
時間数	90分×15回
単位数	2

目標

- 1) インターネットを使って、与えられた情報検索課題を、自ら解くことができる。
- 2) 実務で素早く業務を遂行するために、与えられたアプリケーションの操作方法を改善することができる。
- 3) クラウドコンピューティングが日常生活や企業活動へ与える影響を思考することができる。

各回の内容

1. オリエンテーション：全体の流れと学習方法（従来の検索や操作を振り返る）
2. 情報検索・収集の目的と情報源
3. 検索エンジンの活用
4. 検索演習と情報分析
5. 情報の取扱と実務検索演習と課題
6. 作業効率を考える：Windows操作、ブラウザ操作の改善と演習
7. 作業効率を考える：Word操作の改善と演習
8. 作業効率を考える：Excel操作の改善と演習
9. 作業効率を考える：PowerPoint操作の改善と演習
10. 効率の良い操作を確認する（達成度テスト）
11. クラウドとは何か
12. さまざまなクラウドの特徴を知る
13. Office 3 6 5 と演習(その1)
14. Office 3 6 5 と演習(その2)
15. 情報リテラシー総合演習と評価

準備学習（予習・復習等）

『事前学習』次回の内容の事前調査

『事後学習』学習の振り返りと弱点補強、課題の作成、操作の習得
関連書籍などにより主体的に教養を高めること

短期大学設置基準では、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することが標準と定められております。本学では講義、演習については、原則として15時間の授業をもって1単位としています*ので、1単位の講義、演習については、30時間、2単位の講義、演習については60時間の予習・復習が必要となります(実験・実習は除く)。 *学則第24条

評価方法

毎回の振り返り（各回5点×15回を20%換算）、情報検索ブロック課題等20%、コンピュータスキルズ30%、期末レポート課題30%

教科書

なし。
適宜プリント配布

参考文献

都度紹介する。

キャリア教養特講

概要

地球上あちこちでも、日本あちこちでもイベントは365日に渡って行われている。歴史性が強いもの、地域性が強いもの、多世代交流を主眼にしているもの、多くの機関が連携しているものなど、その性質と目的は多種多様である。ならば、なぜイベントがあるのだろうか。

この授業は、イベントそのものを自ら企画し、実践していくプロジェクト型アクティブラーニングである。この学びを通して、イベントの意義を探究していくとともに社会人に必要な多様な力を育むものである。

担当教員	三瓶千香子
授業形態	講義・演習
学期	前期
必修・選択の別	選択
対象学生	キャリア教養学科2年
時間数	90分×15回
単位数	2

目標

一つのプロジェクトを達成するためには、自らの知識を有機的に融合させながら他者と共に立体的に組み立てていくことが重要となる。他者とのコミュニケーション、折り合いをつけること、発信力、傾聴力、行動力、計画力とタイムマネジメント力などを涵養し、社会人になっても学び続ける力を修得することが授業の目標である。

各回の内容

1. イベントは何のために行うのか
2. イベントの多様な形態～地域への視野の拡張～
3. ゴールイメージの重要性
4. チームワークと巻き込み力～失敗例と成功例～
5. 実施会場の視察
6. 実施計画書の作成1～イベントテーマを考える～
7. 実施計画書の作成2～アイデアの拡張と焦点化～
8. 実施計画書の作成3～チーム分割の必要性と重要性～
9. 準備進捗のシェアと全体課題の絞りだし1～タスクの洗い出し～
10. 準備進捗のシェアと全体課題の絞りだし2～タイムマネジメント～
11. 準備進捗のシェアと全体課題の絞りだし3～チームマネジメント～
12. 準備進捗のシェアと全体課題の絞りだし4～リスクマネジメント～
13. 準備進捗のシェアと全体課題の絞りだし5～俯瞰力と動態表作成～
14. イベントの実施～地域活性と自己変容を目指して～
15. イベントの意義探し～振り返りにかえて～

準備学習（予習・復習等）

できるだけ多くのイベントを調べ、その意義を自ら考える。またボランティア活動をも含めて、多様なイベントに参画する。さらに、復興に関する新聞記事やニュースへアンテナを立てておくこと。

短期大学設置基準では、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することが標準と定められております。本学では講義、演習については、原則として15時間の授業をもって1単位としています*ので、1単位の講義、演習については、30時間、2単位の講義、演習については60時間の予習・復習が必要となります(実験・実習は除く)。 *学則第24条

評価方法

チームワークへの態度30%、振り返りシートの記述内容20%、最終レポート50%

教科書

なし

参考文献

その都度、紹介する。

特別研究 経済・経営

概要

経済、企業等の経営、業界動向に関することをテーマとした研究を行う。研究を通して、経済、企業経営等に関する見識を深める。

担当教員	山野実
授業形態	講義・演習
学期	通年
必修・選択の別	必修
対象学生	キャリア教養学科2年
時間数	90分×30回
単位数	4

目標

自らの研究・他の学生の研究成果により、経済、企業経営等に関する知識や見識を広める。

各回の内容

1. オリエンテーション
2. 論文について
3. 調査研究の進め方
4. テーマ(案)・研究計画の発表
5. 調査研究(1)
6. 調査研究(2)
7. 調査研究(3)
8. 調査研究の進捗状況の発表
9. 調査研究(4)
10. 調査研究(5)
11. 調査研究(6)
12. 中間発表準備
13. 中間発表(研究テーマと論文の構成)(1)
14. 中間発表(研究テーマと論文の構成)(2)
15. 中間発表(研究テーマと論文の構成)(3)
16. 論文作成、助言・指導(1)
17. 論文作成、助言・指導(2)
18. 論文作成、助言・指導(3)
19. 論文作成、助言・指導(4)
20. 中間発表準備
21. 中間発表(1)
22. 中間発表(2)
23. 論文作成、助言・指導(5)
24. 論文作成、助言・指導(6)
25. 論文作成、助言・指導(7)
26. 論文作成、助言・指導(8)
27. 最終発表準備
28. 最終発表(1)
29. 最終発表(2)
30. 最終発表(3)

特別研究 経済・経営

準備学習（予習・復習等）

授業で学んだこと、周囲で起こっている様々な出来事、ニュースなどに対して問題意識をもって接する。

短期大学設置基準では、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することが標準と定められております。本学では講義、演習については、原則として15時間の授業をもって1単位としています*ので、1単位の講義、演習については、30時間、2単位の講義、演習については60時間の予習・復習が必要となります(実験・実習は除く)。 *学則第24条

評価方法

論文・最終発表（論文の構成・内容、表現力など）100%

教科書

必要に応じ、レジメや資料を配布する。

参考文献

各自の研究テーマに応じ紹介する。

特別研究 情報と人・心理

概要

【情報と人・心理】

加藤ゼミの中心は、情報と人です。人と情報との関わり、ICT機器を使った人と人とのコミュニケーション、使っている人そのものの心理状態など、情報機器を使う人の心の問題が数多く存在しています。ITの未来像など、情報と関わりあうときの心理的側面・科学的側面を含めて研究します。

もちろん、情報スキルを上げるために何かを作ってみたい。さらに、未来の生活はどのようなものになるのだろう？などの未来科学や、原発・放射線に関する事、家庭の電気に関する事なども大歓迎です。PCを使って、1年間やり取りしますので、PCスキルを上げたい方も、お待ちしております。

9月末に1日かけて、中間発表を実施します。

担当教員	加藤竜哉
授業形態	講義・演習
学期	通年
必修・選択の別	必修
対象学生	キャリア教養学科2年
時間数	90分×30回
単位数	4

目標

私たちの生活に溢れる情報、その情報と関わりあうときの心理的側面・科学的側面を研究する。安全・安心、webサイトの未来、ICT機器全般（スマホ含む）、eラーニングコンテンツ作成、情報の光と影、ニセ科学(未科学、間違い科学等)、再生医療、高齢化、遠婚、食生活とweb、ITと個の力など、生活の情報資源を心理学的視点や科学的視点から捉え研究します。（付带的に、PCスキルを向上させることができる）

時間数では全く足りないので、授業時間外での学習は必須です。専用のSNSも使用します。

各回の内容

1. オリエンテーションと1年間の研究について
2. 情報と人・心理：テーマ概要と1年間の進め方、SNSサイト登録
3. 論文を書く前に（1）：論文とは？先輩の論文から学ぶ
4. 論文を書く前に（2）：論文の形式と引用・参考、図表の作り方
5. テーマのダウンサイジング
6. 研究計画を作る 提出
7. テーマ発表と質疑応答 提出
8. 調査整理と実態調査または制作・実験と整理（1）
9. 調査整理と実態調査または制作・実験と整理（2）
10. 調査整理と実態調査または制作・実験と整理（3）
11. 調査整理と実態調査または制作・実験と整理（4）
12. 調査整理と実態調査または制作・実験と整理（5）
13. 前期中間発表準備（1）
14. 前期中間発表（グループ1） 提出
15. 前期中間発表（グループ2） 提出
16. 論文構成をマインドマップで作成する 提出
17. 論文作成と指導・助言（1）
18. 論文作成と指導・助言（2）
19. 論文作成と指導・助言（3）
20. 論文作成と指導・助言（4）
21. 論文作成と指導・助言（5）
22. 後期中間発表（グループ1） 提出
23. 後期中間発表（グループ2） 提出
24. 論文作成と指導・助言（6）
25. 論文作成と指導・助言（7）
26. 論文作成と指導・助言（8）
27. 論文作成と指導・助言（9）
28. 論文発表（グループ1） 提出
29. 論文発表（グループ2） 提出
30. 発表会の準備

特別研究 情報と人・心理

準備学習（予習・復習等）

1年後期のアカデミックスキルで作成した論文概要や各自のダウンサイジング資料を読み返しておく。

短期大学設置基準では、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することが標準と定められております。本学では講義、演習については、原則として15時間の授業をもって1単位としています*ので、1単位の講義、演習については、30時間、2単位の講義、演習については60時間の予習・復習が必要となります(実験・実習は除く)。 *学則第24条

評価方法

毎回の振り返り25% 指定した課題提出25% 論文と発表50%

教科書

特にありません。

参考文献

各自の研究テーマに関する文献を含めその都度、授業で紹介する。
小笠原喜康『新版 大学生のためのレポート・論文術』講談社現代新書 2009

特別研究 生涯学習・自己づくり・地域づくり

概要

「生涯学習」を軸とする研究を行う。学ぶとは何かを追究することで、知と知、知と人、人と人、人と地域という様々なつながりの重要性、財産性、そしてその魅力を明らかにする。教育学、心理学、社会学、地域づくりをテーマにすることが多いが、生涯学習そのものが広い概念のため、多様かつ多角的なテーマ設定が可能なのが特徴。高等教育機関における学びの集大成のため、卒業論文執筆に向けて、真摯に、丁寧に指導していく。

担当教員	三瓶千香子
授業形態	講義
学期	通年
必修・選択の別	選択
対象学生	キャリア教養学科2年
時間数	90分×30回
単位数	4

目標

“いつでも・どこでも・だれでも”自己実現可能な生涯学習社会を構築するためには、いかなることが必要なのか。また私たちには何ができるのか。その可能性を、研究を通して理解し追究できる力を身につけ、卒業論文を仕上げることを本授業の目標とする。

各回の内容

1. オリエンテーション（一人一研究論）
2. 論文をなぜ書くか
3. 生涯学習概論
4. 生きがい論について
5. コミュニティとは
6. 連携論と地域づくり1
7. 連携論と地域づくり2
8. 研究テーマの決定
9. 調査法について
10. 中間発表1～研究テーマと論文構成～
11. 中間発表2～研究テーマと論文構成～
12. 中間発表3～研究テーマと論文構成～
13. 中間発表4～研究テーマと論文構成～
14. 論文執筆指導1
15. 論文執筆指導2
16. 論文執筆指導3
17. 論文執筆指導4
18. 論文執筆指導5
19. 論文執筆指導6
20. 論文執筆指導7
21. 論文執筆指導8
22. 論文執筆指導9
23. 論文執筆指導10
24. 最終発表1
25. 最終発表2
26. 研究報告書の作成1
27. 研究報告書の作成2
28. 研究報告書の作成3
29. 特別研究発表会1
30. 特別研究発表会2

特別研究 生涯学習・自己づくり・地域づくり

準備学習（予習・復習等）

生涯学習に関する各自治体や機関の取り組みの情報を探しておく。また自分の特別研究テーマに関する文献や先行研究を毎週、レジュメにまとめて提出すること。

短期大学設置基準では、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することが標準と定められております。本学では講義、演習については、原則として15時間の授業をもって1単位としています*ので、1単位の講義、演習については、30時間、2単位の講義、演習については60時間の予習・復習が必要となります(実験・実習は除く)。 *学則第24条

評価方法

調査への取り組み姿勢40%、論文50%、授業への積極的参加態度10%

教科書

香川正弘・鈴木真理編『よくわかる生涯学習』ミネルヴァ書房(2015年)

参考文献

その都度、各自の研究テーマに合わせて紹介する。

特別研究 メンタルヘルスとコミュニケーション

概要

各自の主體的な関心に基づき、対人関係、メンタルヘルス、グループファシリテーション等をテーマとした研究を遂行する。心理学の知見に基づいた学術的な調査、文献読解、ディスカッション、および論文作成を通して、自己と世界を客観的に再考する能力の習得を目指す。

担当教員	後藤真
授業形態	講義・演習
学期	通年
必修・選択の別	必修
対象学生	キャリア教養学科2年
時間数	90分×30回
単位数	4

目標

自己、他者、世界との「つながり」と「関係性」に着目し、現実社会における様々な課題を学問的に考察する力を培う。またクラスディスカッションを通して相互に研鑽し、内的気づきに基づく学び合いのスキルを獲得する。

各回の内容

1. 前期オリエンテーション
2. 概説：論文について
3. 文献読解1
4. 文献読解2
5. 文献読解3
6. 研究調査計画予備プレゼンテーション
7. 研究調査計画予備プレゼンテーション
8. 調査研究1
9. 調査研究2
10. 調査研究3
11. 調査研究4
12. 調査研究5
13. 研究調査計画プレゼンテーション
14. 研究調査計画プレゼンテーション
15. 総合ディスカッション
16. 後期オリエンテーション
17. 論文作成・個別指導1
18. 論文作成・個別指導2
19. 中間ディスカッション
20. 論文作成・個別指導3
21. 論文作成・個別指導4
22. 論文作成・個別指導5
23. 論文作成・個別指導6
24. 論文作成・個別指導7
25. 論文作成・個別指導8
26. 論文作成・個別指導9
27. 総合ディスカッション
28. 最終発表 1
29. 最終発表 2
30. 最終発表 3

特別研究 メンタルヘルスとコミュニケーション

準備学習（予習・復習等）

関連する文献や資料を主体的に検索し、理解した内容を要約して記録すること。また、クラスディスカッションには積極的に参画し、自己だけでなく他者の学びにも貢献することが求められる。

短期大学設置基準では、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することが標準と定められております。本学では講義、演習については、原則として15時間の授業をもって1単位としています*ので、1単位の講義、演習については、30時間、2単位の講義、演習については60時間の予習・復習が必要となります(実験・実習は除く)。 *学則第24条

評価方法

論文50%、クラスディスカッションへの貢献30%、プレゼンテーション20%を総合的に評価する。

教科書

必要に応じ演習内にて資料等を配布する。

参考文献

各自の研究テーマに応じ演習内にて指示する。

特別研究 99%英語での研究

概要

This course will focus on conducting original research and presenting a strong opinion on a topic that is important to the student. Active discussion about various issues will occur. Writing skills in English will also be taught and practiced extensively. This class will be conducted in all English.

担当教員	藤平明彦アンドリュー
授業形態	演習
学期	通年
必修・選択の別	必修
対象学生	キャリア教養学科2年
時間数	90分×30回
単位数	4

目標

Students will be able to express their opinion in English.
Learners will understand how to conduct original research.
Students will know how to present their findings in a comprehensible fashion.

各回の内容

1. Introduction
2. Thesis Statements
3. Thesis Statements
4. Making Strong Opinions
5. Making Strong Opinions
6. Supporting Your Ideas
7. Supporting Your Ideas
8. Connecting Your Thoughts
9. Connecting Your Thoughts
10. Writing an Outline
11. Writing an Outline
12. Developing Your Outline
13. Developing Your Outline
14. Developing Your Research
15. Developing Your Research
16. After Summer Discussion
17. Individual Work
18. Individual Work
19. Individual Work
20. Individual Work
21. Individual Work
22. Individual Work
23. Individual Work
24. Individual Work
25. Individual Work
26. Individual Work
27. Citations in Your Paper
28. Reference Page Writing
29. Final Thesis Presentations
30. Final Thesis Deadline

特別研究 99%英語での研究

準備学習（予習・復習等）

Take the initiative to research your topic on your own.

Present your findings weekly to the instructor.

Participate actively in the in-class discussions and activities.

短期大学設置基準では、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することが標準と定められております。本学では講義、演習については、原則として15時間の授業をもって1単位としています*ので、1単位の講義、演習については、30時間、2単位の講義、演習については60時間の予習・復習が必要となります(実験・実習は除く)。 *学則第24条

評価方法

Final thesis 50%, Weekly assignments 20%,

In-class work 20%, Class participation 10%

教科書

参考文献

特別研究 言葉と文化・人

概要

言語そのものまたはそれに関連する文化的・社会的・人間発達のな要素を交えながら言語学についての広い見識を獲得し、思考を深めることを目的とする。身近な事象に対する視点を言語学的見地から考察し、それぞれのテーマからより深い研究を行い、論文を執筆していく。

担当教員	高橋未希
授業形態	講義・演習
学期	通年
必修・選択の別	必修
対象学生	キャリア教養学科2年
時間数	90分×30回
単位数	4

目標

自ら関心を持ったテーマを選んで卒業論文を仕上げることができる。第二言語習得や英語教育、言語政策論、社会言語学、日本語教育などの分野から自由にテーマを選び、知識と考察を深めることでそれぞれの考察を論証する。

各回の内容

1. オリエンテーション	研究とは何か、論文を書くということは何をするのか。 / 言語学とは何か
2. 文献購読・発表	
3. 文献購読・発表	
4. 文献購読・発表	
5. 文献購読・発表	
6. 文献購読・発表	
7. 文献購読・発表	
8. 研究テーマの見つけ方	
9. 文献を探す方法	
10. 調査の方法	
11. テーマの絞り込み	
12. 論文指導	
13. 論文指導	
14. 論文指導	
15. 論文指導	
16. 中間発表	
17. 中間発表	
18. 論文指導	
19. 論文指導	
20. 論文指導	
21. 論文指導	
22. 論文指導	
23. 論文指導	
24. 最終報告	
25. 論文集作成	
26. 論文集作成	
27. 論文集作成	
28. 特別研究発表会準備	
29. 特別研究発表会準備	
30. 特別研究発表会	

特別研究 言葉と文化・人

準備学習（予習・復習等）

関連する文献や資料を主体的に検索し、理解した内容を要約して記録すること。演習では、自分だけではなく他の学生が発表した内容も自分の知識として学びとることを心がけ、ディスカッションには積極的に参加すること。

短期大学設置基準では、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することが標準と定められております。本学では講義、演習については、原則として15時間の授業をもって1単位としています*ので、1単位の講義、演習については、30時間、2単位の講義、演習については60時間の予習・復習が必要となります(実験・実習は除く)。 *学則第24条

評価方法

毎週の取り組み姿勢30%（レジュメの内容、発言など）
論文60%、
授業への積極的参加態度10%

教科書

必要に応じ演習内にて資料等を配布する。

参考文献

各自のテーマに関連したものを適宜演習内にて指示する。

特別研究

概要

法学に関する研究を行う。法学という難しくて遠い学問のように思われがちだが、実は「よくある出来事」に関わっていることが多く、非常に身近な学問である。その「よくある出来事」は普通の人の感情や欲が原因となっているため、具体的な事案を論理的に議論するだけでなく、心で感じてもらいたいと思う。そして、様々な事案の中から自分の心のアンテナに引っかかったことを是非とも研究テーマに選んでほしい。各自の個性を大切にしつつ、短期大学で学んだ集大成となる論文が執筆できるよう、丁寧に指導していく。
*テーマは、人権問題、家族法の問題、犯罪に関する問題など、法学全体から選択できる

担当教員	元井 貴子
授業形態	演習
学期	通年
必修・選択の別	必修
対象学生	キャリア教養学科2年
時間数	90分×30回
単位数	4

目標

- ・法律問題を具体的・感覚的に捉えることができるようになる
- ・判例を理解できるようになる
- ・プレゼンテーションや発表を通じて、自分の言いたいことをまとめ、表現し、他人に伝えることができるようになる
- ・論文の作成を通じて、文献や判例を使って法知識につき調査し、自己の理解を深めた上で、文章にまとめることができるようになる

各回の内容

1. 前期オリエンテーション
2. 論文について
3. 判例の重要性
4. 調査・研究(1)
5. 調査・研究(2)
6. 調査・研究(3)
7. 調査・研究(4)
8. 調査・研究(5)
9. 研究テーマの決定
10. 研究計画作成(1)
11. 研究計画作成(2)
12. 研究計画のプレゼンテーション準備(1)
13. 研究計画のプレゼンテーション準備(2)
14. 研究計画のプレゼンテーション
15. 研究計画のプレゼンテーション
16. 後期オリエンテーション・夏季休暇中の研究報告
17. 研究計画再検討
18. 論文作成指導(1)
19. 論文作成指導(2)
20. 論文作成指導(3)
21. 論文作成指導(4)
22. 中間発表
23. 中間発表
24. 論文作成指導(5)
25. 論文作成指導(6)
26. 論文作成指導(7)
27. 論文作成指導(8)
28. 最終発表の準備
29. 最終発表(1)
30. 最終発表(2)

特別研究

準備学習（予習・復習等）

- ・講義で扱った法律問題につき各自で調査すること
- ・研究テーマの選定や研究の実践として各自、文献等にあたること
- ・ニュースや新聞等の報道に触れ、研究テーマに関わるものがないか目を配ること

短期大学設置基準では、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することが標準と定められております。本学では講義、演習については、原則として15時間の授業をもって1単位としています*ので、1単位の講義、演習については、30時間、2単位の講義、演習については60時間の予習・復習が必要となります(実験・実習は除く)。 *学則第24条

評価方法

- ・論文 50%
- ・プレゼンテーション 30%
- ・提出書類 20%

教科書

なし

参考文献

その都度、授業で紹介する